

# 伊万里市民図書館10周年

—伊万里をつくり 市民とともに育つ 市民の図書館—

## 図書館伊万里塾を開催するにあたって

伊万里市民図書館は今年開館10周年を迎えます。

この間、私たちは「協働」という理念を旗印として掲げてまいりましたが、この出発点となったのが開館を前にして開催した「図書館づくり伊万里塾」という学習運動で、このほど日本図書館協会が発行した『図書館ハンドブック』にも特記してあります。

私たちが図書館建設というハード事業と、図書館の歴史と地域に果たす役割について学ぶ伊万里塾というソフト事業を並行して行ったのは、こと文化に関しては、出来上がったものもさることながら出来上がるまでの過程が大切だという考えからでした。「図書館をつくる」のではなく「図書館をはじめると」いつてきたのも、そのような考えの表現だったのです。

開館から早くも10年。みなさんのご協力のおかげでまずまずの成果をおさめ、インドの図書館学者ランガナタンがいう「図書館は成長する有機体である」という金言を実感してまいりました。しかし、次の10年が単なるこれまでの延長であることは許されず、新たな視点と心構えを必要とされることはいうまでもありません。

図書館の本質は「出会う・学ぶ・変わる」ことにあり、本や情報や人との出会いによって、市民のみなさんが知見を深め、時代に合わせて変わっていかれるように、図書館は支援のプログラムを用意していかなければなりません。開館前の平成5年に続いて第2回の「図書館伊万里塾」を開くことにしましたのもそうした認識によるものです。図書館にとって変わるべきことと変わるべからざることは何か。そのことを多くの方々とご一緒に勉強してまいりたいと存じます。

その図書館塾のトップバッターの講師に、『図書館先進県日本一』を政策に掲げておられる古川康佐賀県知事をお迎えします。また締めくくりの回には、名著「豊かさの条件」(岩波書店)の筆者として著名な経済学者・暉峻淑子さんに講師を快諾していただきました。さらにお二人の間には、以下のような図書館に関する専門家を講師としてお招きします。ご期待の上、振るってご参加ください。

- ◆7月塾 7月 3日(日) 13時30分から  
古川康知事 「図書館は未来をひらく」
- ◆8月塾 8月20日(土) 13時30分から  
村中李衣さん(児童文学作家) 「しあわせに本を読み合う」
- ◆9月塾 9月17日(土) 13時30分から  
植松貞夫さん(筑波大学教授・図書館長)  
「図書館のまち伊万里を永遠に」
- ◆10月塾 10月(日取りは未定)  
石川慶蔵さん・川副幸子さん 「図書館を利用して」
- ◆11月塾 11月3日(木) 13時30分から  
寺田芳朗さん(伊万里市民図書館設計者)  
「伊万里図書館の大道具係りが語る・としょかんは進歩して来たの？」
- ◆12月塾 12月3日(土) 13時30分から  
暉峻淑子さん(経済学者) 「豊かさの条件」

# 開館10周年

図書館伊万里塾 11月塾 平成17年11月3日PM1:30～

お話：寺田芳朗・寺田大塚小林計画同人代表・図書館フレンズ伊万里会員

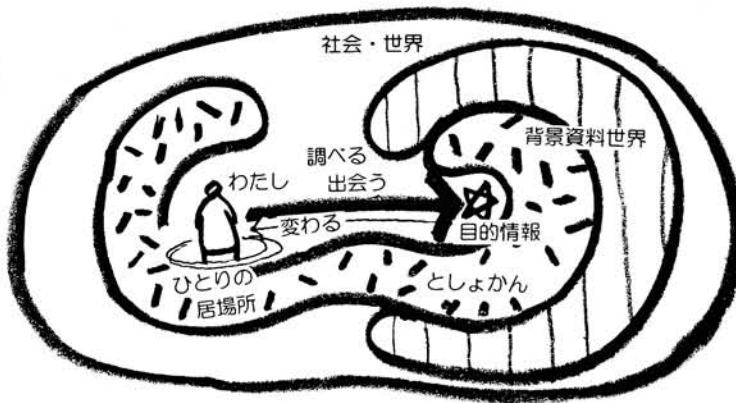
プロフィール：グーグル検索で寺田大塚小林計画同人、または寺田芳朗登録建築家で

○なつかしい同窓会のようなものであり；思い出す12年前のこと、8才は20才、18才は30才。  
いまり学校の期末試験のようでもあり；成長を審査する試験官がいっぱい。

○思い出す言葉の格闘技；なぜ図書館が必要なんですか。ひとりひとりの言葉さがし。  
仲間を作ることと自分の言葉を探すこと；伊万里学と自分学の裏表。いま、ここ、自分。

○天網恢々疎にして漏らさず、天につばして我が身に還る；  
いま大学図書館の必要性を理事長に問われて、私は私の言葉を探している。デジャブ。

図書館での  
学びの情景と  
3つの主機能



図書館の  
はたらき

- 1) 情報調査ができる・援助してくれる。  
調べる技術を身につける。おどろく。  
「調べる・出会う・変わる」
- 2) 目的資料情報との出会いに加えて、  
背景の資料世界の表現が感得される。  
「資料世界表現・環境のうちに学ぶ」
- 3) 「ひとり」という学びの入口に立ち、  
自分の小ささに気づく。世界と自分。  
「ひとりの居場所・時間」

○市民参加 / 学習型まちづくり・伊万里学と図書館づくり「抵抗の紙碑」

2001年「序章」での総括

○閑話休題；もともとの「図書館づくりは格闘技だ」1993年

○伊万里図書館で図書館員と設計者がこころみたかったこと。：貸本屋と違う資料世界表現

○ぶっくんはすごいのです。：でもなにかがまだある。

○学校図書館との連繋は、ビジョンが示されましたか。

○それぞれの秋、お手本にした荻田町図書館はいま。

○それぞれの秋、お手本にした八日市市図書館はそのとき。

○それぞれの秋、お手本にした浦安市図書館から考えたこと。

○図書館の背負う、個人の時代の社会性と公共性。

○姉妹館・埼玉小川町図書館でだすねられたこと。

○今一度確かめる。私たちの図書館を語り合いたいし支援したい；フレンズ國武代表。

皆で作り育てるとしょかんは、どうひとりひとりの豊かさをささえるのか とういう確認。  
自分自身の言葉さがし、伊万里の共通の大切さがし、自分とふるさととの共感を求めて。